

5 記録を保護者と共有しよう

日々の保育の出来事を写真とコメントにより、誰にでも分かるように掲示することで、園内の保育者間はもちろん、異年齢の子どもたちとも共有できる記録（情報）になります。さらに、それらの記録を保護者に伝える工夫をすることにより、園での体験が日々の家庭生活にもつながります。また、子どもたちの疑問や葛藤、探求の様子が保護者に伝わることで、家庭からも情報が得られるようになります。

ようちゅうマンションにつき

墨田区立立花幼稚園（東京都）

グループ毎に飼っている飼育ケースを、全て並べて置いたことから、その場所を子どもたちは「ようちゅうマンション」と呼んでいた。そこで、蝶の幼虫との出会いから飼育をして見守った過程を「ようちゅうマンションにつき」としてまとめた。

そして、「家庭でも引き続き話題にしたり、別の何かに出会ったときにも経験を生かしたりして欲しい」「新しい興味、何かを知りたい気持ちなどに繋がって欲しい」と願い、夏休み前に保護者に配布した。



夏季の長期休業中の家庭での生活にも、園でのアゲハチョウの飼育体験が活きた。

<夏休みから休み明けの子どもの姿より> アゲハチョウを飼うことに挑戦した A 児

夏休みに入り、プール開放に来ていた A 児が、家の近くで幼虫を見付け、飼い始めたことを教えてくれた。えさの葉っぱに付いていた幼虫も含め、3匹になったと言う。「今日から1匹寝てる。さなぎになったんだ」と知らせてくれた A 児に、「じゃあ、いつ生まれるか数えてみたら」と言うと、「うち、アゲハカレンダーないし、作らない!」と言っていた。夏休み明け、初めて顔を合わせたときの第一声が、「1匹はカラスアゲハだったんだよ。びっくりしたー!」だった。後日、また別のチョウチョが羽化したのを友達に見せたいと幼稚園にもってきて「ぼくの家で生まれたんだよ」と嬉しそうに話す A 児だった。

園で羽化した蝶のビデオを観た5歳児の提案で、4歳児や保護者も一緒に親子鑑賞会を楽しんだ。
(P.20 参照)

保護者や保育者が記録を通して、子どもの「科学する心」を共有することで、家庭でも園でも、それぞれの環境を活かして、探求心を育むことにつながっている。

<保護者が書いた夏休みの生活の記録より> 初めて見た虫について調べてみた B 児

自宅近くの道で、なにやらうごめく虫を発見！体長10cm近くもあり、色は鮮やかな黄緑に黒ぶちと赤っぽい斑点。あまりの姿に私も子どももびっくりして悲鳴をあげてしまいました。

子どもが「何だー！青虫か？早すぎるぞー!」と叫ぶ中、私は恐ろしくなって逃げてしまいました…。帰宅後、気になって、二人で何の幼虫が調べてみると「キアゲハ」だったようで、「こんなにキレイになるのー」と子どもも驚いていました。今思えば、私ももっと観察しておけばよかったかなと…。虫を見つめる子どものキラキラした目を見ると、「ママは虫が苦手」とは言えませんね。子どもって「好奇心のかたまり」だなと感じた一日でした。

<園では幼虫がいなくなった10月> 幼虫を飼っている C 児の家で観察を続ける

飼っていた幼虫が羽化できなかったグループの子どもたちは、その後も家で幼虫を飼育している B 児の家に通い、観察を続けた。